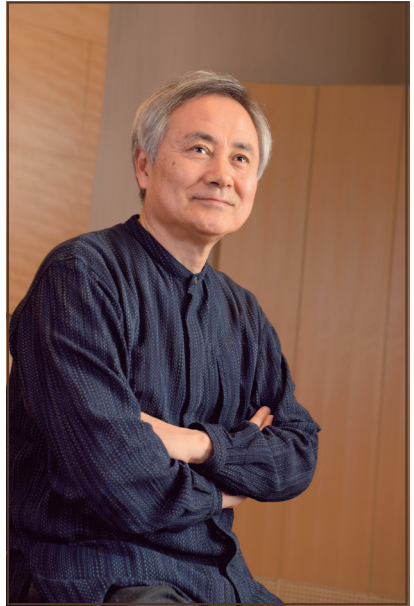


音楽監督から皆様へ

岡山 潔 (ヴァイオリニスト)

東京藝術大学大学院を修了後、ドイツ政府給費生としてハンブルク音楽大学に学ぶ。1971年より13年間、西独の首都ボンンのベートーヴェンハレ管弦楽団の第1コンサートマスターを務め、その間、各地でソリストや室内楽奏者として活躍し、文化面においての多大な貢献から、1984年にドイツ政府より功労十字勲章を授与されている。1984年、読売日本交響楽団の第1コンサートマスターとして迎えられ、帰国した岡山 潔は、精力的な演奏活動と並行して、東京藝術大学での教育活動や音楽プロデューサーとしての活動にも情熱を注ぐ。これまでにJTが育てるアンサンブルシリーズのプロデューサーやアフィニス音楽祭音楽監督を歴任。東京藝術大学とウィーン音楽演劇大学の共同プロジェクトリーダーとして世界に向けて発信した、ハイドン弦楽四重奏曲全曲録音“haydn total”は高い評価を受けている。現在は神戸市室内合奏団の音楽監督、及びリゾナール音楽祭、TAMA音楽フォーラム、真駒内六花亭ホール、鶴川ボプリホールのプロデュースなど、意欲的な活動を続けている。また、海外のアーティストたちとのパイプも太く、今後のふきのとうホールでのコンサートプランニングに大きな期待が寄せられている。東京藝術大学名誉教授、ウィーン音楽演劇大学客員教授。



ふきのとうホール誕生に寄せて

この度、六花亭札幌本店に誕生する“ふきのとうホール”は、音響技術の粋を極めた本格的なコンサートホールです。221席と小さな室内楽専用ホールですが、舞台は広く、独奏から室内オーケストラまで多種多様な編成の演奏を、ゆったりとした座席で楽しめます。音響面では、美しく豊かなホールトーンと同時に、繊細な音色の変化や演奏者の息づかいまでが聴く人に伝わってくるよう設計が施されています。

本年9月から、ふきのとうホールでのコンサート・シリーズがスタートします。

第一線で活躍するアーティストたちや様々なアンサンブルによる名演奏で、ルネサンスやバロックの音楽から現代にいたる時代の魅力溢れる作品、そして隠れた名作の数々が、このホールに響き渡ります。素晴らしい演奏、聴衆、そして上質な演奏空間の三者が一体となって生まれる卓越した演奏芸術が今、このふきのとうホールから発信されるのです。

さらに国内外の室内楽ホールとの連携も視野に入れ、世界の室内楽ファンから注目されるような興味深い演奏プロジェクトの立ち上げにも意欲を持って取り組みます。

また、将来の発展が大いに期待できる弦楽四重奏とピアノ三重奏の若手グループをふきのとうホール・レジデンスアンサンブルとして招聘し、育てていきます。この優れた音響環境でのリハーサルや意欲的なプログラミングによるコンサートを通して、2組の才能豊かな若手アンサンブルがどのように成長し、世界の舞台に向かって羽ばたいていくのかを聴衆の皆様と共に見守り、応援していきたいと思っています。もちろん、この他に年間を通して、ニューイヤー・コンサート、夏の夕べのセレナーデ・コンサートやクリスマス・コンサートなどのご家族で楽しめる企画もたくさん準備されています。

さて、最後になってしまいましたが、7月5日から毎日開催されるふきのとうホール完成記念のオープニング・フェスティバルにも、ご覧の通り世界中から素晴らしいアーティストたちがやってきます。ウィーンフィルのコンサートマスター、R. ホーネックと神戸市室内合奏団との共演による柿落しに始まり、モザイク・カルテットが登場するフィナーレまでの全25公演は、一つ一つのプログラムに参加アーティストたちの熱い思いが凝縮されており、どれも聴き逃せない魅力的で興味深いコンサートばかりです。

まずは、この夢のオープニング・フェスティバルに、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

2015年1月
ふきのとうホール音楽監督

岡山 潔